

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6724552号
(P6724552)

(45) 発行日 令和2年7月15日 (2020.7.15)

(24) 登録日 令和2年6月29日 (2020.6.29)

(51) Int. Cl.

F I

H O 1 M 2/10 (2006.01)

H O 1 M 2/10 E

H O 1 M 10/04 (2006.01)

H O 1 M 2/10 S

H O 1 M 10/0587 (2010.01)

H O 1 M 10/04 W

H O 1 M 10/613 (2014.01)

H O 1 M 10/0587

H O 1 M 10/615 (2014.01)

H O 1 M 10/613

請求項の数 1 (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2016-104972 (P2016-104972)
 (22) 出願日 平成28年5月26日 (2016.5.26)
 (65) 公開番号 特開2017-212120 (P2017-212120A)
 (43) 公開日 平成29年11月30日 (2017.11.30)
 審査請求日 平成31年3月15日 (2019.3.15)

(73) 特許権者 000003207
 トヨタ自動車株式会社
 愛知県豊田市トヨタ町1番地
 (74) 代理人 110001210
 特許業務法人 Y K I 国際特許事務所
 (72) 発明者 田代 広規
 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

審査官 太田 一平

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バッテリー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

セパレータを挟んで正極電極および負極電極が扁平状に巻回されている電極巻回体を扁平箱形の電池ケースに収容してそれぞれ構成される複数の電池セルと、

一方向に沿って配列された前記各電池セル間に介在されているスペーサと、

前記複数の電池セルおよび前記スペーサに対して前記一方向に沿って拘束荷重を付与する拘束手段と、を備えるバッテリーであって、

前記電池ケースは可撓性の側壁を有し、前記スペーサは前記側壁に当接する低ばね定数凸部および高ばね定数凸部を含んでおり、前記スペーサの低ばね定数凸部は前記電池ケース内の前記電極巻回体に対向する位置で前記側壁に当接し、前記スペーサの高ばね定数凸部は前記電池ケース内の前記電極巻回体に対向しない位置で前記側壁に当接し、

前記低ばね定数凸部と前記高ばね定数凸部の夫々は、前記電池セルの高さ方向に沿って延伸する細長い直方体状をなしていて、前記電池ケースの側壁に当接する先端面が細長い長方形状をなしてあり、

前記スペーサが自然状態にあって押圧力が作用していないとき、前記低ばね定数凸部の突出長さが前記高ばね定数凸部の突出長さよりも長くなっている、バッテリー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、バッテリーに関する。

10

20

【背景技術】

【0002】

従来、例えば特許文献1には、平行に延在する一对の平面部と該一对の平面部の各一方端部の間および各他方端部の間に連続して形成された一对の湾曲部とを有する扁平形捲回電極群が扁平箱形の電池缶に收容された角形電池を、複数平行に並べて各角形電池の間に冷却媒体が流される組電池が記載されている。

【0003】

この組電池では、互いに隣り合う角形電池の間であって前記扁平形捲回電極群の平面部と湾曲部との間の境界部分に対向する位置に境界部スペーサが配置され、互いに隣り合う角形電池の間であって前記扁平形捲回電極群の平面部に対向する位置に中間部スペーサが配置されている。このように境界部スペーサおよび中間部スペーサを配置することで、角形電池の充放電時に生じる発熱によって電池缶が外側に膨張するのを抑制でき、その結果、各角形電池間に形成される冷却媒体の通路の面積減少が抑制されて各角形電池に対する冷却を十分に行えると記載されている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】国際公開第2013/084290号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0005】

上記特許文献1に記載される組電池では、角形電池の配列方向に作用する所定の拘束荷重でもって拘束される必要がある。これにより、境界部スペーサで電池缶を押圧することができ、発熱時における電池缶の膨張を抑制できる。しかしながら、例えばアルミニウム合金からなる電池缶の側壁は可撓性を有するため、電池内部で発熱により膨張した扁平形捲回電極群が電池缶の側壁を介して境界部スペーサによって局部的に押圧されることになる。この場合、扁平形捲回電極群を構成する電極の表面で局部的に面圧が高くなる領域が発生し、面圧差が大きくなる領域で電気化学反応が集中的に生じて金属析出（例えばリチウムイオン電池の場合ではリチウム析出）が発生し易くなる。このような金属析出は、セパレータの貫通によって正極および負極間の内部短絡を引き起こす原因となる。

30

【0006】

他方、各角形電池間に介在された例えば樹脂製のスペーサが継続的に押圧され且つ角形電池の発熱の影響を受けることでクリープが発生し、これによりスペーサの縮み量（つぶれ量）が大きくなって角形電池の配列方向における拘束荷重が低下することがある。そのため、上記のような組電池において各角形電池がしっかりと拘束された状態を維持するための拘束荷重は、上記のようなクリープを考慮して、組電池の組立時において所定の下限値以上となるよう大き目に設定しておく必要がある。

【0007】

本発明の目的は、バッテリーを構成する複数の電池セルに対する拘束荷重を確保しながら、電池セル内の電極捲回体を構成する電極の局所押圧による金属析出を抑制できるバッテリーを提供することにある。

40

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明に係るバッテリーは、セパレータを挟んで正極電極および負極電極が扁平状に巻回されている電極捲回体を扁平箱形の電池ケースに收容してそれぞれ構成される複数の電池セルと、一方向に沿って配列された前記各電池セル間に介在されているスペーサと、前記複数の電池セルおよび前記スペーサに対して前記一方向に沿って拘束荷重を付与する拘束手段と、を備えるバッテリーであって、前記電池ケースは可撓性の側壁を有し、前記スペーサは前記側壁に当接する低ばね定数凸部および高ばね定数凸部を含んでおり、前記スペーサの低ばね定数凸部は前記電池ケース内の前記電極捲回体に対向する位置で前記側壁に当

50

接し、前記スペーサの高ばね定数凸部は前記電池ケース内の前記電極捲回体に対向しない位置で前記側壁に当接し、前記低ばね定数凸部と前記高ばね定数凸部の夫々は、前記電池セルの高さ方向に沿って延伸する細長い直方体状をなして、前記電池ケースの側壁に当接する先端面が細長い長形状をなしており、前記スペーサが自然状態にあって押圧力が作用していないとき、前記低ばね定数凸部の突出長さが前記高ばね定数凸部の突出長さよりも長くなっている。

【発明の効果】

10

【0009】

本発明に係るバッテリーによれば、電極捲回体はスペーサの低ばね定数凸部により電池ケースの側壁を介して押圧されるため、比較的弱い押圧力で押圧されることになる。したがって、電極捲回体の局所押圧によって生じる電極の面圧差を低減でき、金属析出を抑制できる。また、スペーサの高ばね定数凸部は、電極捲回体と対向しない位置で電池ケースの側壁を比較的強く押圧することができ、その結果、各電池セルに対する拘束荷重を所定の下限值以上に確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】一実施形態であるバッテリーの斜視図である。

20

【図2】(a)は本実施形態の単電池およびスペーサを上方から見た状態で概略的に示す図であり、(b)は比較例の単電池およびスペーサを上方から見た状態で概略的に示す図である。

【図3】(a)～(c)は、本実施形態のスペーサが電池ケースを押圧する様子を説明するための図である。

【図4】(a)、(b)は、他の実施形態をそれぞれ示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下に、本発明に係る実施の形態について添付図面を参照しながら詳細に説明する。この説明において、具体的な形状、材料、数値、方向等は、本発明の理解を容易にするための例示であって、用途、目的、仕様等にあわせて適宜変更することができる。また、以下において複数の実施形態や変形例などが含まれる場合、それらの構成を適宜に組み合わせることは当初から想定されている。

30

【0012】

図1は、本発明の一実施形態であるバッテリー10の斜視図である。図1における3つの矢印X、Y、Zは互いに直交する三方向を示す。本実施形態では、矢印Xを配列方向、矢印Yを幅方向、矢印Zを高さ方向とすることがある。

【0013】

バッテリー10は、複数の電池セル1と、各電池セル1間に介在されたスペーサ20Aとを備える。本実施形態における電池セル1は、電力を充放電可能な例えばリチウムイオン電池等の二次電池が好適に用いられる。複数の電池セル1は、X方向に並んで配列されている。電池セル1の数は、バッテリー10の要求出力等に基づいて、適宜設定することができる。なお、電池セル1は、リチウムイオン電池以外の二次電池、例えば、ニッケル水素電池、ニッケルカドミウム電池、ナトリウム硫黄電池等が用いられてもよい。

40

【0014】

電池セル1は、直方体状の扁平箱形をなす電池ケース2の内部に、扁平形状の電極捲回体3が電解質と共に収容されて封入されている。電極捲回体3は、正極電極および負極電極がセパレータを挟んで扁平形状に巻回されて構成される。正極電極を構成する正極活物質には、例えば、コバルト酸リチウムを用い、負極電極を構成する負極活物質には、例えば、カーボンを用いることができる。

50

【 0 0 1 5 】

電池ケース 2 は、例えばアルミニウム合金板等の金属板を絞り加工等によって扁平直方体状に形成した有底の筐体と、その筐体の開口部を塞ぐ蓋材とによって構成できる。電池ケース 2 は、配列方向 X に対向する一対の幅広の側壁 2 a , 2 b と、幅方向 Y に対向する一対の幅狭のケース側壁と、底部とを有する。一対の幅広の側壁 2 a , 2 b は、アルミニウム合金板等の金属板部分によって構成されるため可撓性を有している。

【 0 0 1 6 】

本実施形態では、電池ケース 2 の内部に収容された扁平形状の電極巻回体 3 は、その巻回軸 O が幅方向 Y に沿って配置されている。具体的には、図 1 中に破線で示すように、電極巻回体 3 は、幅方向 Y から見た状態で、配列方向 X に向いた一対の平面部と、これら一対の平面部の高さ方向 Z の両端部に連続する一対の湾曲部とを含むトラック形状（又は長円形状）をなしている。

10

【 0 0 1 7 】

電池ケース 2 の上面（すなわち蓋材の表面）2 c には、正極端子 4 及び負極端子 5 がそれぞれ突出して設けられている。正極端子 4 は、電池ケース 2 内の電極巻回体 3 を構成する正極電極に電氣的に接続されている。負極端子 5 は、電池ケース 2 内の電極巻回体 3 を構成する負極電極に電氣的に接続されている。

【 0 0 1 8 】

本実施形態において、配列方向 X に隣り合う電池セル 1 同士は、図 1 に示すように、正極端子 4 と負極端子 5 とが配列方向 X に交互に並ぶように配置されている。そして、図示しないバスバーが、隣り合って配置される 2 つの電池セル 1 について、一方の電池セル 1 の正極端子 4 と、他方の電池セル 1 の負極端子 5 とに接続される。これにより、本実施形態のバッテリー 1 0 では、すべての電池セル 1 が電氣的に直列に接続されている。ただし、バッテリーは、電氣的に並列に接続された複数の電池セル 1 を含んでもよい。

20

【 0 0 1 9 】

バッテリー 1 0 は、一対のエンドプレート 1 2 a , 1 2 b と、拘束バンド 1 4 とを更に備える。これらのエンドプレート 1 2 a , 1 2 b および拘束バンド 1 4 は、本発明における拘束手段に相当する。一対のエンドプレート 1 2 a , 1 2 b は、電池セル 1 の配列方向 X におけるバッテリー 1 0 の両端に配置されている。配列方向 X の一方端に位置するエンドプレート 1 2 a は、電池セル 1 と接触して配置されている。これに対し、配列方向 X の他方端に位置するエンドプレート 1 2 b は、スペーサ 2 0 A を介して電池セル 1 に対向配置されている。また、スペーサ 2 0 A は、各電池セル 1 の間にそれぞれ挟まれて配置されている。スペーサ 2 0 A の詳細については後述する。

30

【 0 0 2 0 】

各エンドプレート 1 2 a , 1 2 b の上端面および下端面には、各 2 本の拘束バンド 1 4 がそれぞれ取り付けられている。各拘束バンド 1 4 は、配列方向 X に沿ってそれぞれ延伸している。各拘束バンド 1 4 の両端部は、図示しないボルト等の締結部材によってエンドプレート 1 2 a , 1 2 b に締結されている。

【 0 0 2 1 】

エンドプレート 1 2 a , 1 2 b および拘束バンド 1 4 を用いることにより、複数の電池セル 1 に対して拘束荷重 F 1 を与えることができる。拘束荷重 F 1 は、配列方向 X における両側から各電池セル 1 を押さえ付ける力であり、バッテリー 1 0 が組み立てられた際に付与される初期荷重である。

40

【 0 0 2 2 】

なお、複数の電池セル 1 に対して拘束荷重 F 1 を与える拘束手段は、図 1 に示す構造に限るものではない。例えば、拘束バンド 1 4 の形状、本数、配置位置等は、適宜変更することができる。また、配列された電池セル 1 およびスペーサ 2 0 A をバッテリーケースに収容し、バッテリーケースの互いに対向する一対の側壁によって拘束荷重を付与してもよい。

【 0 0 2 3 】

本実施形態のバッテリー 1 0 は、例えば、ハイブリッド自動車や電気自動車等の車両に搭

50

載することができる。ハイブリッド自動車は、車両の走行エネルギーを発生する動力源として、内燃機関と、バッテリー 10 からの電力で駆動されるモータとを用いた車両である。電気自動車は、車両の動力源としてモータだけを用い、そのための電力源としてバッテリー 10 だけ、又は、バッテリー 10 と燃料電池を用いた車両である。バッテリー 10 を搭載した車両では、バッテリー 10 から出力された電気エネルギーを運動エネルギーに変換して車両を走行させたり、車両の制動時に発生する運動エネルギーを回生電力に変換してバッテリー 10 に蓄えたりすることができる。

【0024】

図 2 (a) は本実施形態の電池セル 1 およびスペーサ 20 A を上方から見た状態で概略的に示す図であり、図 2 (b) は比較例の電池セルおよびスペーサを上方から見た状態で概略的に示す図である。

10

【0025】

図 1 および図 2 (a) に示すように、スペーサ 20 A は、平板状のベース部 22 と、ベース部 22 から突出して形成された複数の凸部 24 a, 24 b とを有する。スペーサ 20 A は、例えば、樹脂材料によって一体的に形成されている。本実施形態では、各凸部 24 a, 24 b は、電池セル 1 の高さ方向 Z に沿って延伸する細長い直方体状をなし、電池ケース 2 の側壁 2 b に当接する先端面が細長い長形状をなしている。また、スペーサ 20 A において、電池ケース 2 の他方の側壁 2 a に当接するベース部 22 の表面は、平坦面に形成されている。

【0026】

20

凸部 24 a, 24 b の高さ方向 Z の長さは、電池ケース 2 内に收容された電極巻回体 3 の平面部の高さ方向 Z の長さと同じ程度に形成されるのが好ましい。バッテリー 10 として組み立てられて拘束荷重 F 1 が加わったとき、スペーサ 20 A の各凸部 24 a, 24 b の先端面は、図 2 (a) に示すように、電池ケース 2 の平坦な側壁 2 b の外面に当接して押圧する。

【0027】

本実施形態におけるスペーサ 20 A では、3 つの凸部 24 a が形成されている。各凸部 24 a は、電池ケース 2 内の電極巻回体 3 に対向する位置で電池ケース 2 の側壁 2 b に当接する低ばね定数凸部である。例えば、低ばね定数凸部 24 a は、後述する高ばね定数凸部である凸部 24 b と異なる樹脂材料、より詳しくは低弾性率の樹脂材料によって形成することで実現できる。このように異なる樹脂材料からなる各凸部 24 a は、インサート成形、接着、圧入等の方法でベース部 22 に一体化することができる。また、各凸部 24 a は、ベース部 22 上において幅方向 X に間隔をおいて配置されている。なお、凸部 24 a の数は、1 つ又は 2 つであってもよいし、4 つ以上であってもよい。

30

【0028】

他方、スペーサ 20 A の幅方向 Y の両端部に突設されている 2 つの凸部 24 b は、電池ケース 2 内の電極巻回体 3 に対向しない位置で電池ケース 2 の側壁 2 b に当接する高ばね定数凸部である。各凸部 24 b は、ベース部 22 と同じ樹脂材領で一体に形成されている。各凸部 24 b は、電池ケース 2 の両端側、すなわち、電池ケース 2 の幅狭の側壁近傍で側壁 2 b に当接していることが好ましい。

40

【0029】

図 2 (a) の下図として、各凸部 24 a, 24 b によって電池セル 1 に作用する面圧が示されており、横軸が幅方向位置を表し、縦軸が面圧を表している。この下図を参照すると、本実施形態のスペーサ 20 A を用いた場合、低ばね定数凸部 24 a に対応する位置での面圧 P 1 が低く抑えられ、高ばね定数凸部 24 b に対応する位置での面圧 P 2 が大きくなっている (すなわち $P 1 < P 2$) 。

【0030】

図 2 (b) に示す比較例のスペーサ 20 B では、間隔をおいて形成された 3 つの凸部 24 c によって、電極巻回体 3 に対向する位置で電池ケース 2 の側壁 2 b を押圧する例が示される。この例において、凸部 24 c によって電池ケース 2 に作用する面圧を P 2 とした

50

場合、電池セル 1 に対する所望の拘束荷重 F_1 を確保しようとするすると面圧 P_3 が高くなる。

【0031】

上述した本実施形態のスペーサ 20A の凸部 24a, 24b による面圧 P_1 , P_2 と比較すると、 $P_1 < P_3 < P_2$ の関係になる。このように大きな面圧 P_3 で可撓性の側壁 2b を介して電極捲回体 3 を局所的に押圧すると、凸部 24c に対向する位置と対向しない位置とで面圧差が大きくなり、その結果、電極捲回体 3 における電気化学反応の集中が発生して金属析出（リチウムイオン電池の場合にはリチウム析出）が生じ易くなる。

【0032】

これに対し、本実施形態におけるスペーサ 20A を用いた場合には、電極捲回体 3 に対向する位置に配置された低ばね定数凸部 24a で比較的弱い面圧 P_1 で可撓性の側壁 2b を介して電極捲回体 3 を押圧するので、電極捲回体 3 を構成する正極電極および負極電極に生じる面圧差を低減できる。その結果、電極捲回体 3 における電気化学反応の集中によって生じ得る金属析出（リチウムイオン電池の場合にはリチウム析出）を抑制できる。また、低ばね定数凸部 24a による電極捲回体 3 の拘束面積を小さくするとともに面圧を低減することで、短時間で高電力を充放電する際に生じるハイレート劣化の耐性も向上する。

【0033】

他方、本実施形態のスペーサ 20A では、高ばね定数凸部 24b で電池ケース 2 の幅方向両側端部の側壁 2b を比較的強い面圧 P_2 でしっかりと押圧できる。高ばね定数凸部 24b は電極捲回体 3 に対向しない位置で電池ケース 2 の側壁 2b を押圧するので、電極捲回体 3 を構成する正極電極および負極電極に対して面圧差の影響を与えることはない。したがって、本実施形態のスペーサ 20A を用いれば、低ばね定数凸部 24a による電池ケース 2 に対する拘束荷重が低くても、高ばね定数凸部 24b によって電池セル 1 に対する拘束荷重 F_1 を所定の下限值以上に確保することができる。

【0034】

図 2 (a) を再び参照すると、スペーサ 20A の各凸部 24a, 24b の間には、複数の空間 26 が形成されている。これらの空間 26 は、例えば空気等の温度調整媒体を流す流路として利用できる。各空間 26 に温度調整媒体を流すことによって電池セル 1 を電池ケース 2 の外側から冷却することが可能である。これとは逆に、電池セル 1 が適正な動作温度より低温である場合には、例えば加熱した空気等を空間 26 に温度調整媒体として流して、電池セル 1 を昇温させることもできる。

【0035】

図 3 (a) ~ (c) は、本実施形態のスペーサ 20A が電池ケース 2 を押圧する様子を説明するための図である。

【0036】

図 3 (a) は、スペーサ 20A が押圧されていない自然状態にあるときの側面図である。スペーサ 20A が自然状態にあって押圧力が作用していないとき、低ばね定数凸部 24a の突出長さが高ばね定数凸部 24b の突出長さよりも段差 d だけ長く形成されている。そのため、図 3 (b) に示すように、スペーサ 20A が電池セル 1 の側壁 2b に押し付けられたとき、まず、低ばね定数凸部 24a がつぶれ量 y だけ変形した状態になる。このとき、高ばね定数凸部 24b は、電池ケース 2 の側壁 2b に接触していない。この状態で、スペーサ 20A が電池セル 1 に及ぼす拘束荷重は、3 つの低ばね定数凸部 24a の合計のばね定数を k_2 とすると、「 $k_2 \times y$ 」で表すことができる。なお、この状態では高ばね定数凸部 24b は電池ケース 2 に当接していないため、高ばね定数凸部 24b による拘束荷重は「0」である。

【0037】

そして、図 3 (c) に示すように、スペーサ 20A の各凸部 24a, 24b のつぶれ量 y が更に大きくなって高ばね定数凸部 24b も電池ケース 2 の側壁 2b に押圧された状態になったとき、低ばね定数凸部 24a による拘束荷重は「 $k_2 \times y$ 」で表され、2 つの高

10

20

30

40

50

ばね定数凸部 2 4 b の合計のばね定数を k_1 としたとき高ばね定数凸部 2 4 b による拘束荷重は「 $k_1 \times (y - d)$ 」で表すことができる。これらの合計荷重、すなわち、 $k_1 \times (y - d) + k_2 \times y$ が上述した所望の拘束荷重 F_1 となるように、低ばね定数凸部 2 4 a のばね定数 k_2 、高ばね定数凸部 2 4 b のばね定数 k_1 、および、低ばね定数凸部 2 4 a と高ばね定数凸部 2 4 b 間の段差距離 d を設計すればよい。

【0038】

なお、本発明は、上述した実施形態およびその変形例の構成に限定されるものでなく、本願の特許請求の範囲に記載された事項およびその均等な範囲において種々の変更や改良が可能である。

【0039】

例えば、上記では、弾性率が異なる樹脂材料を用いることでスペーサ 2 0 A の低ばね定数凸部 2 4 a および高ばね定数凸部 2 4 b を構成する例について説明したが、これに限定されるものでない。図 4 (a) に示すスペーサ 2 0 C のように、低ばね定数凸部 2 4 a が、幅方向に湾曲して延びる皿ばね状または板ばね状に形成されてもよい。また、図 4 (b) に示すスペーサ 2 0 D のように、ベース部 2 3 を波板状に形成し、ベース部 2 3 に含まれる多数の突出部のうちの例えば 3 つの突出部の高さを大きくすることによって、低ばね定数凸部 2 4 a を構成してもよい。

【0040】

また、上記においてはスペーサ 2 0 A のベース部 2 2 の一方側表面に低ばね定数凸部 2 4 a および高ばね定数凸部 2 4 b を設ける例について説明したが、ベース部 2 2 の配列方向 X の両側表面に各凸部 2 4 a , 2 4 b を設けてもよい。

【0041】

さらに、上記においては低ばね定数凸部 2 4 a と高ばね定数凸部 2 4 b との間に段差 d を設けて低ばね定数凸部 2 4 a が先につぶれる構成としたが、これに限定されるものではない。低ばね定数凸部 2 4 a および高ばね定数凸部 2 4 b の各先端面が同一平面上となるように構成してもよい。

【符号の説明】

【0042】

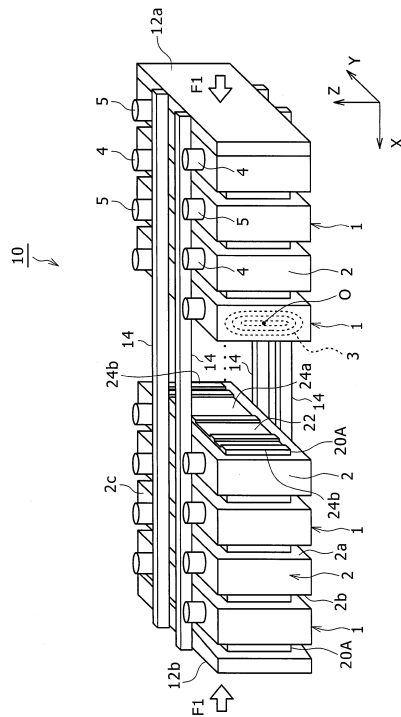
1 電池セル、2 電池ケース、2 a , 2 b (電池ケースの)側壁、3 電極捲回体、4 正極端子、5 負極端子、10 バッテリー、12 a , 12 b エンドプレート(拘束手段)、14 拘束バンド(拘束手段)、20 A , 20 B , 20 C , 20 D スペーサ、22 , 23 ベース部、24 a 低ばね定数凸部、24 b 高ばね定数凸部、26 空間、 d 段差、 F_1 拘束荷重、 k_1 高ばね定数、 k_2 低ばね定数、 P_1 , P_2 , P_3 面圧、 y つぶれ量。

10

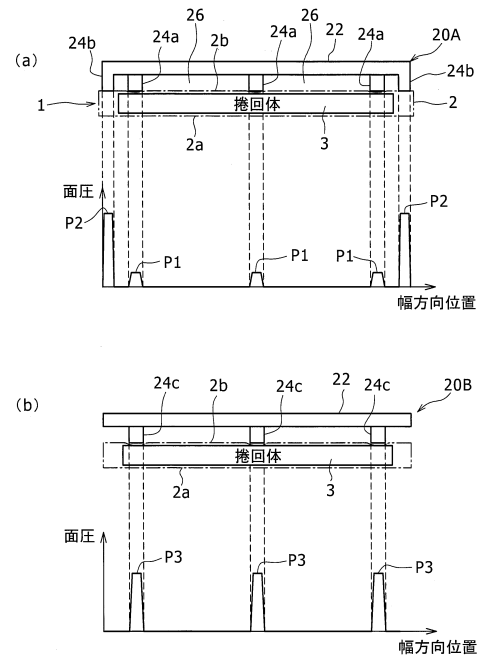
20

30

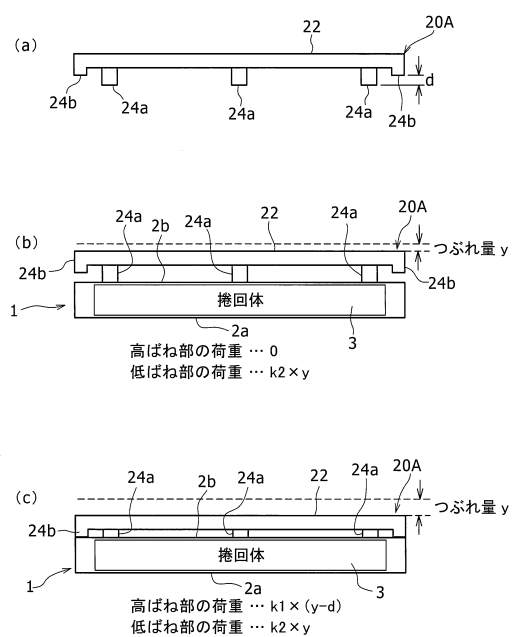
【図 1】



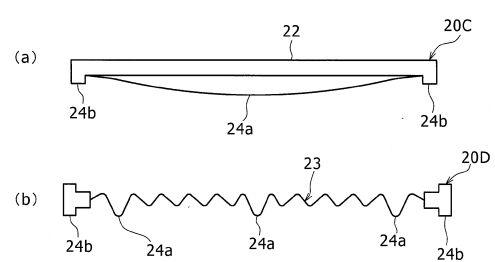
【図 2】



【図 3】



【図 4】



 フロントページの続き

(51) Int.Cl.		F I	
H 0 1 M	10/647 (2014.01)	H 0 1 M	10/615
H 0 1 M	10/6563 (2014.01)	H 0 1 M	10/647
H 0 1 M	10/6556 (2014.01)	H 0 1 M	10/6563
		H 0 1 M	10/6556

(56) 参考文献 特開 2 0 1 5 - 1 3 8 7 5 3 (J P , A)
 特開 2 0 1 5 - 2 0 7 5 3 7 (J P , A)
 国際公開第 2 0 1 1 / 1 5 8 3 4 1 (W O , A 1)
 特開 2 0 0 0 - 0 4 8 8 6 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 3 - 2 0 0 9 4 0 (J P , A)
 特開 2 0 1 2 - 2 3 0 8 3 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 4 - 0 0 2 9 0 7 (J P , A)
 特開 2 0 1 7 - 0 9 8 1 0 7 (J P , A)

(58) 調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
 H 0 1 M 2 / 1 0
 H 0 1 M 1 0 / 5 2 - 1 0 / 6 6 7
 H 0 1 M 1 0 / 0 4
 H 0 1 M 1 0 / 0 5 8 7